

認知症カフェ支援者育成研修と 認知症介護者の集合研修

一般社団法人 久留米健康くらぶ

〒830-0023 福岡県久留米市中央町 35 番地 1

助成事業の概要

◇認知症カフェ支援者育成研修

1. 目的：認知症カフェを平日毎日円滑に運営する為に、登録をされた支援者の方々に認知症の正しい理解と認知症本人との接し方を学ぶ事により、認知症本人や予備群の方々の進行防止に寄与する。

2. 対象：一般市民・専門大学生・運動指導士等登録された支援者

3. 日時及び内容：毎月第3木曜日19時～21時実施

◇認知症介護者の集合研修

1. 目的：認知症本人を介護している家族の介護負担軽減と接し方を学ぶ事での本人の進行防止

2. 対象：認知症カフェ利用者の認知症家族介護者

3. 日時：毎月1回（基本は第2木曜日14時半～16時半）

事業の成果

◇全体として

・29年度の新規会員 29名の動機と各種改善事例に見られるように運営効果が出てきている

・入会で一番多かったのが、娘さんがインターネットで当ほっとカフェを知り、連れて来られた件数で3年間の平日毎日の活動により、インターネットで検索して来られる事が増えてきました

・全体の支援体制が、22団体約60名となり、一般支援者も学生含め30名を超えました

◇認知症カフェ支援者育成研修

・運動指導士・一般市民サポーター・看護学科の学生等を対象に3年間実施してきて、認知症という病気を正しく理解し、認知症本人への接し方や困っている家族への対応のスキルアップになりました

・特に学生は、3年間の中で4人が卒論のテーマに取り上げ、就活の面談（ボランティア体験で記入）では、認知症カフェの質問攻め（特に市町村）にあい、大いに役立ったようです

・只、丸3年になる育成研修も以前からきているサポーターにとっては、マンネリ化もあり30年度では4～6月は月1回で、年間6回の研修・交流会として見直し、都度の連携を強化する事になりました

◇認知症介護者の集合研修

○別名“笑進の会（介護者の集い）”として、29年度初めて毎月開催し、下記成果となりました

・一番の目的は、介護者の負担軽減でありお互いの悩みや苦勞を話し合う中で月1回の例会が楽しみとなり、認知症本人への接し方を学び、家族の穏やかな日々の生活に寄与してきています

・特に初めて参加された方は、1人で孤軍奮闘の傾向にあるが、同じ仲間意識により連帯感と接し方の改善を通じて、様々なインフラ（行政・介護制度の利用等）を知り、介護の改善に繋がっている

・特に男性が、奥様を介護していく事は大変で介護者のプライドも含め簡単ではないが、日頃怒りが先行していた事例が、確実に穏やかな対応に変化し、お互いの感情緩和に繋がっている

・当ほっとカフェは、要介護1～要支援・軽度の方が多く、最初だからこそ早期発見・早期対応が重要で、老々夫婦や1人住まいの高齢者が、年だからと周りが気がつかずに進行している現状が、多く見られ、その為の当認知症予防カフェ（ほっとカフェ）の役割や責任を痛感しています

成果の広報、公表

・29年度に今までの活動が認められ、久留米市長寿支援課さんと運営中の5ヶ所でHP掲載の検討会を重ね、平成30年度より、久留米市の認知症カフェ一覧（現在6店）がスタートできた事が最大の成果であり、その公表されたHPを見て、早速4月だけで2件の無料体験～入会に繋がりました

・29年10月に、福岡県人権啓発情報センター主催の県民講座2017の高齢者部門で90分の講演依頼を頂き、認知症カフェの現状と必要性を県民にお伝えし、同10月に県主催のNPOと企業との協働推進事業の募集で応募し、5ヶ所の提案団体の1つとして選ばれ、事例発表を行いました

そして平成30年2月には、福岡県70歳現役応援センター主催の中高年の為の起業セミナーで講演をさせて頂き、福岡県レベルでの広報・公表に繋げる事ができました

・平成30年3月に支援団体の中の専門家メンバーや上記一般サポーター及び利用者の集まりで1年間の活動成果を発表し、平成30年度での更なる活動の理解を深め支援継続を頂く事になりました

今後の展開

・平日毎日の運営で丸3年を経過し、後2年で

モデル版認知症カフェの完成を目指しています

・現在の支援体制（専門家・市民ボラ・専門学生等）を更に充実しながら、認知症本人や困っている家族そして予備群や心配な方々の進行防止・早期発見・予防を目指して参ります

・その為には、当助成金事業である①認知症カフェサポーターの育成と②困っている介護家族への支援が重要で、元気な高齢者の集まりからデイサービスを利用するまでの空白期間を埋める居場所として、全国の認知症カフェのモデル版を目指して参ります

・又今後は、若年性認知症の方々の居場所づくりにも寄与していければと考えています

・近い将来は、認知症ご本人達自身が気楽に集う居場所づくりも視野に展開を検討して参ります